

まち遺産セミナー 2016

CPD 認定講座

文化財レスキューの現場から

—地震被災地の建造物と歴史史料を救出する—



- 日時：2016年2月11日（木・祝）
午後2時～4時（受付開始 1時40分）
- 会場：砂丘館（旧日本銀行新潟支店長役宅）・座敷・居間・茶の間
- 参加費：700円（新潟まち遺産の会会員は500円）
- 講師：長谷川順一（被災建物・史料救援ネット共同代表・
建築事務所 住まい空間研究所主宰）
- 問い合わせ先 新潟まち遺産の会
電話 025-228-2536
E-mail : chanoma@machi-isan.sakura.ne.jp
新潟市中央区東堀前通1番町353

*予約は不要です。直接会場へ起こしてください。
*駐車場はありません。古町周辺の駐車場を利用するか、
バスでおいでください（詳しくは裏面を）。

主催 新潟まち遺産の会
後援 一般社団法人 新潟県建築士会

2014年11月、長野県北部で、最大震度6弱を観測した長野県神城断層地震が発生しました。災害が起こると、大量の貴重な歴史史料や建物が、調査されることもなく、解体廃棄されるという事態が繰り返されています。今回も同様のことが繰り返されると危惧した専門家グループは、被災建物・史料救援ネットを結成し、延べ300名におよぶ博物館学芸員や建築家の協働により歴史的建造物と文化財のレスキュー活動を展開しました。被災地では何が起こっていたのでしょうか。活動の中心となった長谷川氏が報告します。

写真：解体が始まると小屋裏に一世紀ぶりに光が射し込む（小谷村の民家）。

古い建物、身近にある地域の歴史文化遺産を守り 生かす手立てを、みんなで考えるセミナーです。

長野県神城断層地震では5市村で255棟が全半壊しました。築100年を越す民家や土蔵も数多く、建物の解体とともに、受け継がれてきた地域の歴史や文化も消えようとしていました。

地震の翌春から始まった被災建物・史料救援ネットの活動では、解体予定の61棟で、建物の調査記録がなされ、家屋や蔵とともにゴミとして片付けられるところだった多数の古文書や生活を偲ぶ史料や民具が救出されました。

また、歴史史料が日の目を見ただけでなく、伝統的な建物に独自に備わった「地震をしるぎ、やり過ごす」仕組みが確認されました。この地震で人的犠牲者が出なかったことは「白馬の奇跡」と言われましたが、その状況も明らかになり、その成果は2015年11月に開催された長野市立博物館での「救い出された地域の記憶」展でも紹介されました。

「歴史文化遺産を安心して受け継ぐ」ために必要なのは、ふだんからその存在と価値を知り、地域内外のネットワークで情報を共有することです。被災した建物や史料を救援保全した経緯をうかがい、災害時には一気に失われかねない歴史文化遺産を次世代に受け継ぐヒントを得たいと思います。



長谷川順一氏プロフィール

新潟市生まれ。建築事務所 住まい空間研究所主宰。阪神・淡路大震災以降の「古い建物は危険、木造は弱い」という風評に疑問を持ち、新潟・能登で震災が相次いだ2007年、建物修復支援ネットワークを設立。各地で起こる自然災害からの復興を、建築保全修復の立場で支援している。2015年春、ヘリテイジマネージャーや博物学芸員の協働による被災建物・史料救援ネットを設立。

写真右上から：小屋裏から発見された棟札（小谷村）／散乱した家財の中から史料を救出する（白馬村）／墨書痕跡から建物の歴史を読み解く（白馬村）／各地から専門家が集結した建物調査（白馬村）
上：構造即意匠の美しさに息をのむ（白馬村の土蔵）



砂丘館のご案内

住所 新潟市中央区西大畑町 5218-1
TEL & FAX 025-222-2676

アクセス

※駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用ください。

■新潟駅からバスで

浜浦町線 C2 系統または 観光循環バス乗車、バス停「西大畑坂上」下車徒歩1分

■タクシーで：

新潟駅万代口から約15分（約3km）

